

# 生活支援作業部会報告

會澤加奈子 大関智子 亀田隼人 川井優子 齋藤大地 清水麻由  
松本晃 宮井清香 奥住秀之 濱田豊彦 村山拓

## I 生活支援について

本校では生活支援を「家庭や地域で暮らすための基礎的な知識や技能、態度を形成するとともに、将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力への支援」と定義している。また、本定義作成当時の資料には、「将来の生活を主体的に切り開いていこうとする力」について以下のような説明が付記されていた。

- ①動機づけ（生活していこうとする気持ち）された状態
- ②方向性（将来の生活への見通し）を持っている
- ③内容（知識）と方法（技能）を備えている
- ④自己アセスメント（できる・できないの力の見極め）がそれなりに可能
- ⑤支援表明（必要な援助を求める等）ができる

この資料から、本校の生活支援に対する考え方として、“できないからやらない、やる必要がないといった考え方ではなく、できることは自分で、できないことは本人自身が援助を求めることを重視し、各ライフステージで経験してほしい活動を保障し、幼児児童生徒の主体性を育てていこうという意図”を読み取ることができる。

表5 生活支援内容配列表の構造

	身辺生活	家庭生活	集団生活	地域生活	経済生活	健康安全 性
幼						
小低	生活の広がり					
小高						
中						
高						

本校における生活支援は、『身辺生活』『家庭生活』『集団生活』『地域生活』『経済生活』『健康・安全・性』の6要素から指導内容が構成されている（表5）。『身辺生活』『家庭生活』『集団生活』『地域生活』の4つの要素の関係は“生活の広がり”として捉え、『経済生活』『健康・安全・性』の2つについてはこうした視点では捉えることのできない質的に特徴のあるものとして位置付けている。

また、前述の4つの要素の関係は、一直線上だけではなく同心円上に拡大する指向性を含んでいる（図6）。つまり、最も内側の『身辺生活』に関する内容が、ライフステージの上昇に伴いそのニーズがなくなるのではなく、それぞれのステージの具体的な課題へと発展、または、置き換わっていく。一方、最も外側の『地域生活』に関する内容であっても、幼い時期からその芽生えがあり、大切に育てていく必要がある。このように、生活支援の内容はライフステージとの関連が色濃く、5つの支援区分の中で幼稚部から高等部までの継承性を最も典型的に捉えることのできる支援内容なのである。

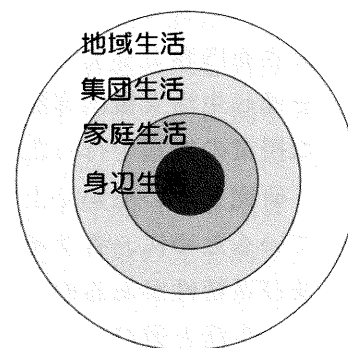


図6 4要素の関係図

(平成14年度研究開発実施報告書)。

## II 問題と研究の経緯

過去3年間の研究において、幼稚部と高等部を中心に生活支援の検討に取り組んできた。(表6)

表6 生活支援に関連する過去3年間の研究テーマ

年度	研究テーマ
平成23年	<p>【高等部】</p> <p>「生徒の生活によりそう『くらし』の授業づくりⅡ」</p> <p>高等部3年間の継続的な学習としての「くらし(実技)」の授業改善を図る中で、支援内容配列表と学習内容一覧を基に、新たに学習の構成を作成し、指導内容の再構築を行った。</p>
平成24年	<p>【幼稚部】</p> <p>「幼児期の主体性を育む生活と遊びの研究－生活における初期の要素を探る－」</p> <p>人形を用いた「象徴遊び」をもとに、幼児たちが日々の生活の中で印象深く経験したことを自らの遊びの中で再現する様子を確認めるとともに、幼児期の支援の在り方を検討した。</p>
	<p>【高等部】</p> <p>「生徒の生活によりそう『くらし』の授業づくりⅢ」</p> <p>生徒自身が「主体的な自己」となり卒後の生活を営むことができるよう、思考・関心・意欲に焦点をあて授業改善を行うとともに家庭との連携のツールである評価表の改善を行った。</p>
平成25年	<p>【高等部】</p> <p>「高等部3年間で教えるべき生活知識について考える」</p> <p>これまでの授業実践の評価に加え、防災教育や情報化社会といった現代的なニーズから「くらし(生活知識)」の指導内容を見直した。</p>

本校における生活支援は、“生活の広がり”という視点から4つの要素が関係付けられているが、同心円的な関係(図6)として捉え直すと『地域生活』の外側には卒後の生活が広がっている。他の特別支援学校と同様、本校においても高等部を卒業した多くの生徒が就労し、卒後は働く生活が中心となるが、働く力や意欲を生み出し生活全体を支えるのは、安定した基本的な生活習慣(食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱など)の自立である。

そこで、昨年度までに幼稚部及び高等部から提案された内容(表6)を受け、今年度生活支援作業部会では、学校場面で指導機会が多く、且つ幼稚部から高等部まで系統的に扱うことのできる内容として「清潔」に焦点を当てた。「清潔で衛生的な生活」をテーマに据え、授業実践を通じ生活支援内容配列表の改訂を試みるとともに、新版の生活支援内容配列表を受けた新たな授業の提案を行った。

研究を進めていく上で、まずは生徒達が卒後の「清潔で衛生的な生活」を主体的に切り開いていくために、各ライフステージにおける教育内容、さらにそれらの間にはどのような関連性及び系統性があるのかを見出す必要があった。平成24年度幼稚部による「幼児期の主体性を育む生活と遊びの研究－生活における初期の要素を探る－」から、幼児期の支援の中心は食事、

排泄、着替えなどの基本的な生活習慣の行為であり、その時期の「清潔で衛生的な生活」に繋がる極初期の行為として「手洗い」が見出された。“手を洗う”という行為は、顔や身体を洗う、歯を磨く、髭を剃るといったセルフケアに関連する行為に発展していく。それと同時に、食器を洗う、衣類を洗う、掃除をするといった対象をきれいにするといった行為にも発展していくと考えた。

さらに、セルフケアや対象をきれいにするといった行為は、身だしなみや病気の予防等との関連も深く、図7に「手洗い」が「清潔で衛生的な生活」に繋がっていくイメージ図を示した。尚、先述した生活支援内容配列表の構造の特徴上、「手洗い」という極初期の内容であっても、ライフステージの上昇に伴いそのニーズが消失するのでは

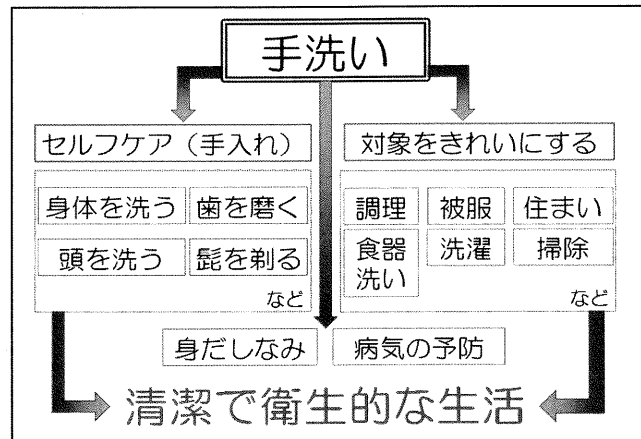


図7. 清潔で衛生的な生活に関するイメージ図

はなく、手を濡らし擦り合わせていた段階から、就労に向けた丁寧な手順を学習する段階へと各ステージで要求される水準が徐々に高次化していくと予想した。

### Ⅲ 支援内容配列表の評価と改訂

本校の支援内容配列表には1つ1つの要素が具に記載されているのではなく、各ライフステージにおける大分類の内容（生活支援内容配列表における『身近生活』等）を象徴する中心的で具体的な要素のみが記載されており、俯瞰図としての構造上の特徴を持つ。この構造の最大の利点は、現在の子どもの位置を二次元的に捉えることができるとともに、支援の方向性が明確になるという点である。

しかし、現行の生活支援内容配列表は作成された平成14年度当時から改訂されずに約10年が経とうとしており、要素の内容の重複や抽象的な表現での記載があり、支援の方向性を見出しづらい俯瞰図となっている。そこで、近年の研究（表6）を踏まえた内容の追加と重複項目の削除及び内容の具体化、その他の修正を以下のように実施した。

#### 1. 過去3年間の研究を踏まえた新たな内容の追加

幼稚部の研究から、「清潔で衛生的な生活」に発展していく極初期の内容として、「食事や排泄の後などには丁寧に手を洗う。」が提案された。生活支援作業部会では、提案された内容をもとのライフステージに追加するかについて教員間で協議を行ったが、さらに協議結果を裏付けるために、本校の幼児児童生徒全員を対象に調査を行った。調査の内容はセルフケアに関するものであり、「手洗い」・「歯磨き」・「入浴」について担任に評価してもらった。「手洗い」については、①手順、②タイミング、③手洗いをする理由の3質問からなり、①手順（10項目：袖をまくる、石鹸をつける、手のひらを洗う、手の甲を洗う、指の間を洗う、爪の先を洗う、親指を洗う、手首を洗う、水で石鹸を流す、ハンカチ・タオルで拭く）は“ひとりでもできる”、“声かけでもできる”、“手添えでもできる”、“できない”の4段階評価とした（図8）。

その結果（図9）、幼稚部ではほとんどの幼児が大人と一緒に手洗いを行っている一方で、中学部、高等部では個人差はあるものの多くの生徒が一人で手洗いができていた。つまり、小学部段階が手洗いの手順の指導の中心的な時期であることが実態調査からも明らかとなり、協議の末得られた結果と一致した。

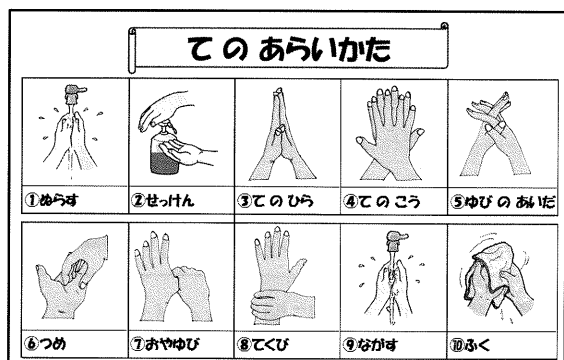


図8. 手洗いの手順

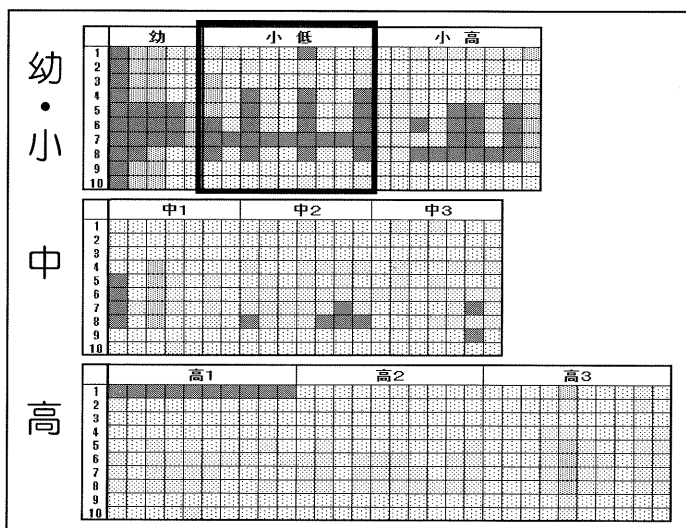


図9. 手洗いに関する実態調査の結果

\* 縦軸が各手順・横軸が幼児児童生徒、セルの色が濃い部分が未達成の手順を示す。

幼稚部の研究から提案された「おもちゃを元の場所に片づける。」は、公共物の使用に関連する内容であり、集団生活が本格化する小学部段階における約束やルールを守る初期の内容であると考え、小学部低学年段階に配置した。しかし、集団生活の小学部低学年段階にはすでに「集団生活の中にはきまりがあることに気づく。」が記載されていたため、内容の文言の抽象度を揃えるという観点から「集団生活の中にはきまり（おもちゃを元の場所に片づける）があることに気づく。」と括弧内に表記することとした。同様の理由から、先述した手洗いに関する内容についても、身近生活の小学部低学年段階に記載されていた内容に括弧内表記を加え、「日常生活に必要な身近処理（食事や排せつの後などには丁寧に手を洗う）を自分でする。」とした。

高等部の研究からは経済生活と健康・安全・性に関する2つが提案された。1つ目の「生活にかかるお金について知る。」は、経済生活の高等部段階に配置するとともに、各学部で行われてきた経済生活に関わる授業実践を基に記載内容の修正を行った。2つ目の「防犯・防災について理解し、対処法を知る。」は、東日本大震災を受けて新たに授業実践を行い提案された内容であるが、健康・安全・性（危険回避）の高等部段階の「危ないことの予測や配慮を考えて行動する。」に変わる内容として配置した。

表7 身近生活の記載内容一例

## 2. 重複する項目の削除

身近生活、家庭生活、集団生活、地域生活については、記載内容の抽象度が高く内容の重複も多く見られた（表7）ため、重複内容を削除するとともに幼稚部段階の「日用品(コ

	身近生活
幼	○日用品（コップ・歯ブラシ）を使う経験をする。
小低	○身近にある日用品の使い方を知る。
小中	○ひとりで扱える身近な日用品の数を増やす。
小高	○上手に扱える身近な日用品の数を増やす。
中	○日用品を使えるようになる。
高	○日用品を活用できる。

ップ・歯ブラシ)」の様に括弧内表記にて内容に具体性を持たせることとした。

また、現行の支援内容配列表では、小学部段階は低学年・中学年・高学年の3つの段階に区分されていたが、コミュニケーション支援同様、中学年段階に記載された内容のほとんどは、低学年もしくは高学年に重複して記載されていた。そのため、中学年段階に独自な内容を提示する必要性は低く、むしろ中学年という段階を設けることで項目の過剰な重複が生じていると考えられた。そこで、小学校中学年という区分そのものを見直し、小学部段階は小学部低学年と小学部高学年の2つの区分で捉えることとした。

### 3. その他

項目の内容の追加や修正を行う過程で、各スコープの幼稚部から高等部までの一貫性を検討するとともにスコープの中分類についても見直した。具体的には、家庭生活の「生活知識」、経済生活の「いろいろなお店」「金銭の扱い・管理」、健康安全性の「疾病理解」について、作業班で各学部の実践を振り返り、削除することとした。

## IV 新たな授業の提案

前掲の図7にあるように「清潔で衛生的な生活」に繋がる極初期の内容としての「手洗い」が、①各ライフステージでどのように変化していくのか、②他の内容と関連しながらどのように発展していくのか、の2側面から新たな授業の実践を試みた。以下では、今年度新たに取り組んだ授業実践を紹介する。

### 1. 中学部1年「くらし（生活知識）」

1つめの側面については、中学部1年生を対象にくらし「身体の清潔と健康」の授業、高等部1年生を対象に保健「手の清潔と健康」の授業を行った。その結果、「手洗い」を生活上の行為として定着を目指す幼稚部・小学部段階とは異なり、中学部及び高等部段階では“なぜ手洗いをしなければならないのか”、“手洗いをしないとどうなるのか”という点を理解することで、生徒が明確な動機を持った行為として率先して実践するということが明らかとなった。

### 2. 高等部「くらし（実技）」－住まい・調理・被服－

2つめの側面については、高等部3学年を対象に「清潔で衛生的な生活」をテーマに、くらし3分野についてそれぞれ授業を行った。

「くらし」は本校独自の授業であり、文部科学省の指定研究開発「個別の教育的ニーズにこたえる教育課程と授業の実践（平成12年度～平成14年度）」の中で、生活支援の内容を扱う中心的な教科として新たに創設された教科である。くらしの授業は、衣食住に相当する被服、調理、住まいの3分野に生活知識を加えた4分野から構成されるが、洗濯や調理、掃除などの技能の習得を目指すだけでなく、将来どのような生活をし、どのような人生を送るのかを生徒自身が考えることができるよう、生活への気付きや意欲の育成についても重視している。

実際の授業では、「清潔で衛生的な生活」に対する生徒自身の気付きを促し、自立した生活へ向けての意欲を育むきっかけとなる題材として、被服では「衣類の清潔」、調理では「食品の衛生」、住まいでは「清潔な住まいづくり」を取り上げた。

以下では、研究協議会当日に公開された高等部1年「くらし（被服）」の授業を紹介する。本授業では、見えにくい汚れを可視化し、洗濯することの必要性が理解できることをねらいとした。生徒のほとんどは、一日着た服、特に肌着については洗濯することが当たり前だと理解していたが、肌着の汚れを可視化することで、実感を伴う理解につながり、決まり事としての洗濯ではなく、洗濯することの意味を理解でき、実践につながると考えた。見えない汚れを可視化するために使用したのは、一日着た服（白いTシャツ）、洗濯後の服（白いTシャツ）、ニンヒドリン試薬である。両方の白いTシャツにニンヒドリンをふきかけると、一日着た服に大きな反応が見られた。

ここで、10人の生徒を4つのグループに分けた。グループは生徒の実態を考慮して編成した。グループでは、①グループ（生徒2人、教員1人）は自分の使った衣類（事前に生徒に白い靴下、白いハンカチを使用させ、サンプルを作成した）で再実験すること、②グループ（生徒2人、教員1人）はTシャツのどこが特に汚れているかを調べることに、③グループ（生徒3人）と④グループ（生徒3人）は汚れの原因や放っておくとどうなるかを考えることを課題として提示した。どのグループでも生徒からの意見を引き出し、話し合いをしながら活動を進めていくようにした。

①グループでは、自分が使った衣類で再実験をし、汚れている反応が出ることで、一日着た服と洗濯した服では一日着た服が汚れていることを理解するきっかけとなった。②グループではTシャツの首回りや脇が特に汚れていることを明らかにし、その原因が汗をかいているからという部分まで深めることができた。③④グループでは司会役の生徒を決め、ワークシートに沿って話し合いを進めた。汚れの原因については、汗をかくから、夜にお風呂に入って長い時間が経っているから等の意見が出た。放っておくとどうなるかについては、汚い、気持ち悪い、嫌だ、恥ずかしい等の意見が出た。

それぞれのグループで出た結論を全体で共有した。①グループの再実験の結果を全体で発表した際は、授業前半で白いTシャツで実験した結果に半信半疑だった生徒も「うわ～本当に汚れているんだ…」と声を漏らしていた。②③④グループで出た結論については、人間は何もしていなくても汗をかいていること、放っておくと不潔で臭いが出ること等をまとめた。最後に洗濯の必要性を全体で確認した。

## V まとめ

今回の改定により、生活支援内容配列表を中心に据え、幼稚部から高等部までの実践を共有するとともに、俯瞰図としての意味を再確認することができた。また、生活支援作業部会では今年度「清潔で衛生的な生活」をテーマに、各ライフステージの教育内容、及びそれらの関連性、系統性の一部分を、授業実践を通じて明らかにすることができた。今後は、本年度の授業実践の評価を踏まえ、生活支援内容配列表における関連する内容の追加・修正を検討する必要がある。また、今回の研究では卒後の豊かな生活の根底をなす基本的な生活習慣の自立に関連する内容を取り上げたが、生活支援には『地域生活』や『経済生活』などの社会情勢の変化の影響が大きい要素も含まれる。それらの要素について検討していくことが今後求められるだろう。

（文責：齋藤）





## 生活支援 指導略案

学部：高等部  
場所：個別学習室

「本人の気づきを大切にし、衣類の清潔に着目した授業」											
授業名	くらし実技（被服） 「服の役割：衛生、健康」	指導者	MT：松本 晃 ST：川井 優子 ST：高野 裕美								
対象者	高等部1年 生徒10名（男子6名、女子4名）										
設定理由	□関連する支援内容配列表項目										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>身近生活</th> <th>家庭生活</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学部</td> <td>○日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td></td> <td>○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。</td> </tr> </tbody> </table>				身近生活	家庭生活	小学部	○日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。		高等部	
	身近生活	家庭生活									
小学部	○日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。										
高等部		○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。									
設定理由	<p>本校高等部では、卒業後の自分自身の暮らし方、更には生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習として「くらし」を設定している。新版支援内容配列表で「日常生活に必要な身近処理（手洗い）」の項目が加わり、高等部では、清潔の視点から授業作りを行った。</p> <p>対象生徒は1月から被服の授業に取り組んでいる。一日着た服について、ほとんどの生徒が汚れているから洗濯する必要があると理解しているが、本当に服が汚れていることを理解している生徒は少ない。また、ほとんどの生徒は自分の服を家族に洗濯してもらっているため、洗濯の必要性を感じている生徒も少ない。これらの実態から、一日着た服の汚れを可視化することで服の汚れに気づき、洗濯の必要性を感じることができれば、生徒の衣生活への興味が高まり、より主体的な生活を送ろうとするきっかけになるのではないかと考え、本授業を設定した。</p> <p>授業の前半は下記の学習を行う。後半は生徒や保護者からのアンケート、クラス集団の実態等を考慮してグループを編成し、洗濯の知識や技術を獲得するための活動を行う。本時は前半のみ行う。</p>										
指導計画	(全7回 本時：4/7)	本時の目標	○目に見えない汚れがあることを知る。 ○洗濯の必要性を意識し、衣生活への関心を高める。								
指導計画	①オリエンテーション ②お気に入りの服紹介 ③服の役割：身体の保護、所属 ④服の役割：衛生、健康【本時】 ⑤家での洗濯いつだれか？ ⑥服の購入：採寸 ⑦服の購入：実際に購入										
学習活動の展開	学習活動		指導内容・留意点								
	(1)	・目に見えない汚れについて考える。	・一日着た服と洗濯したての服ではどちらが汚れているか考え、話し合うことができる。								
	(2)	・実験をする。	・試薬を使って服の汚れを可視化することで、一日着た服は汚れていることがわかる。								
(3)	・まとめをする。	・一日着た服は汚れていることや汚れの程度がわかる。 ・服に着色した物質がわかり、洗濯しないことのデメリットがわかる。									
評価	○服の汚れ、その原因について仲間と話し合うことができたか。 ○意欲的に実験に参加できたか。										





生活支援

# 高等部

## 1年生「くらし実技（被服）」

松本 晃

### 関連する支援内容配列表項目

	身辺生活	家庭生活
小学部	○日常生活に必要な身辺処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。	
高等部		○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。

### 「本人の気づきを大切にし、衣類の清潔に着目した授業」

- 集団の実態
    - ・高1生徒 10名 IQ 18~68 知的障害、自閉症、ダウン症
    - ・洗濯に関する家事をし始めた生徒がいる。
    - ・なぜ洗濯が必要なのか理解している生徒は少ない。
  - 関連する個別教育計画「決められた家事に自ら取り組む」10人中3人(洗濯機で洗濯、干す、たたむ、収納する等)
  - 支援内容配列表との関連
    - ・支援内容配列表に手洗いにに関する項目が追加され、清潔、衛生面から生徒の主体者意識を育てることをねらいとした。
  - 授業のポイント
    - ・生徒たちが実感を持って「わかる」こと→実験
    - ・主体的に考えること、参加すること→話し合い
- これらの経験を重ね、主体的に生活する姿を期待する。

### 本単元の指導計画

くらし実技（被服）のテーマ：すてきで快適な衣生活

回	学習内容（高1）			
	思考、関心、意欲（授業前半） 「衣服の役割」	知識、技能（授業後半） 「洗濯の基本」		
	全体	Aグループ※1	Bグループ	Cグループ
1	オリエンテーション テーマの追究	なし	なし	なし
2	ファッションショー※2	たたみ、収納	干し	洗濯機と洗剤の量
3	服の役割①身体の保護、所属	たたみ、収納	洗濯機と洗剤の量	干し、取り込み
4	服の役割②衛生、健康	なし	なし	なし
5	家での洗濯、いつだれが？※3 自分ができることはなに？	たたみ、収納	洗濯機、干し	たたみ、収納
6	購入の導入（採寸等）	洗濯機、干し	たたみ、収納	つけおき洗い
7	下着の購入	なし	なし	なし

※1 グループは生徒の実態や課題、アンケートを基に編成している。

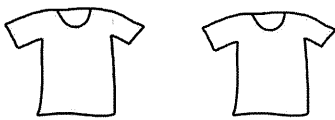
※2 自分の服についてのコメントを仲間からもらい、服に関する興味を高める。

※3 自分の家で洗濯がどのように行われているか把握し、自分ができることを考える。

実技への意欲を高める

### 実験（全体活動）

どちらも白いTシャツ



洗濯した服

一日着た服

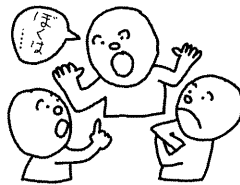
ニンヒドリン実験キットを使って、汗、皮脂の汚れを見える化！！



### 話し合い（グループ活動）

「使ったハンカチで再実験」  
「特にどこが汚れている？」  
「汚れの原因はなに？」  
「放っておくとどうなる？」

4つのグループを編成し、上記の課題に取り組む。



### 発表（全体活動）

「洗濯って重要！！」



ニンヒドリン  
実験キット



# 生活支援 指導略案

学部：高等部  
場所：調理室

「本人の気づきを大切にし、食品衛生に着目した授業」

授業名	くらし実技（調理） 「食品の衛生」	指導者	MT：宮坂美帆子 ST：渡邊聡 ST：角田真紀子									
対象者	高等部2年 生徒10名（男子4名、女子6名）											
設定理由	<input type="checkbox"/> 関連する支援内容配列表項目 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 45%;">身辺生活</th> <th style="width: 45%;">家庭生活</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学部</td> <td>○日常生活に必要な身辺処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td></td> <td>○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。</td> </tr> </tbody> </table>				身辺生活	家庭生活	小学部	○日常生活に必要な身辺処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。		高等部		○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。
		身辺生活	家庭生活									
小学部	○日常生活に必要な身辺処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。											
高等部		○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。										
	<input type="checkbox"/> 関連する個別教育計画の目標 「自分に合った将来の生活を考えることができる」「料理のレパートリーを増やす」「将来の自立に向けて、自発的に家事をする」など 本校高等部では、卒業後の自分自身のくらし方、更には生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習として「くらし」を設定している。新版支援内容配列表で「日常生活に必要な身辺処理（手洗い）」の項目が加わり、高等部では、清潔の視点から授業作りを行った。 対象生徒は調理の授業を1月より開始した。生徒たちは家庭の協力のもと、校内実習期間中に自分でお弁当を作る経験をしている。また、各作業所や企業での実習で調理補助を行ったり、厨房で働いたりした生徒もいる。手洗いなどの基本的な生活習慣は身につけているものの、食品の新鮮さや傷みについての知識は曖昧な生徒が多い。将来の生活を考え、調理における安全や衛生についての知識を実際の経験を通して獲得してほしいと考え本授業を設定した。 本授業では、新鮮な食品や傷んだ食品を観察し、見分け方などについて生徒同士で話し合いを行う。実際の授業では、それぞれの調理経験や発達段階に即して、3つの互いに協働するグループを編成する。グループ学習後は、グループ毎に発表を行い、学んだことを共有したい。											
指導計画	(全7回 本時：4/7)	本時の目標	○傷んでいる食品の見分け方について知る。 ○衛生的な調理活動について考え、意見交換することができる。									
	①オリエンテーション ②～③調理実習 ④本時 ⑤～⑦調理実習											
学習活動の展開	<b>学習活動</b>	<b>指導内容・留意点</b>										
	(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 始まりの挨拶をする。</li> <li>・ 食品が傷むとはどういうことなのか、考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の始まりを意識する。</li> <li>・ 「食品が傷む」ことについて、自由に挙手、発言をする。</li> </ul>									
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 傷んでいる食品を見分ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実物を見ながら、食品はカビが生えたり腐ったりすることを知る。</li> <li>・ 傷んだ食品を食べると、体調不良を起こすなど、危険があることを知る。</li> </ul>									
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品の傷みを見分ける方法について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 食品の傷みを見分ける手掛かりには「におい」「見た目」の感覚的指標と、「賞味期限」などの客観的指標があることを知る。</li> </ul>									
	(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各グループで分かったことを発表しあう。</li> <li>・ 終わりの挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他グループの発表を通し、衛生についての知識を深める。</li> <li>・ 学習の終わりを意識し挨拶する。</li> </ul>									
評価	<input type="checkbox"/> 衛生的な調理活動についての知識を深められたか。 <input type="checkbox"/> 食品の衛生について仲間と話し合うことができたか。											



生活支援

# 高等部

## 2年生「くらし実技（調理）」

宮坂美帆子

### 関連する支援内容配列表項目

小学部	日常生活に必要な身辺処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。
高等部	○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。

### 「本人の気づきを大切に、食品の衛生に着目した授業」



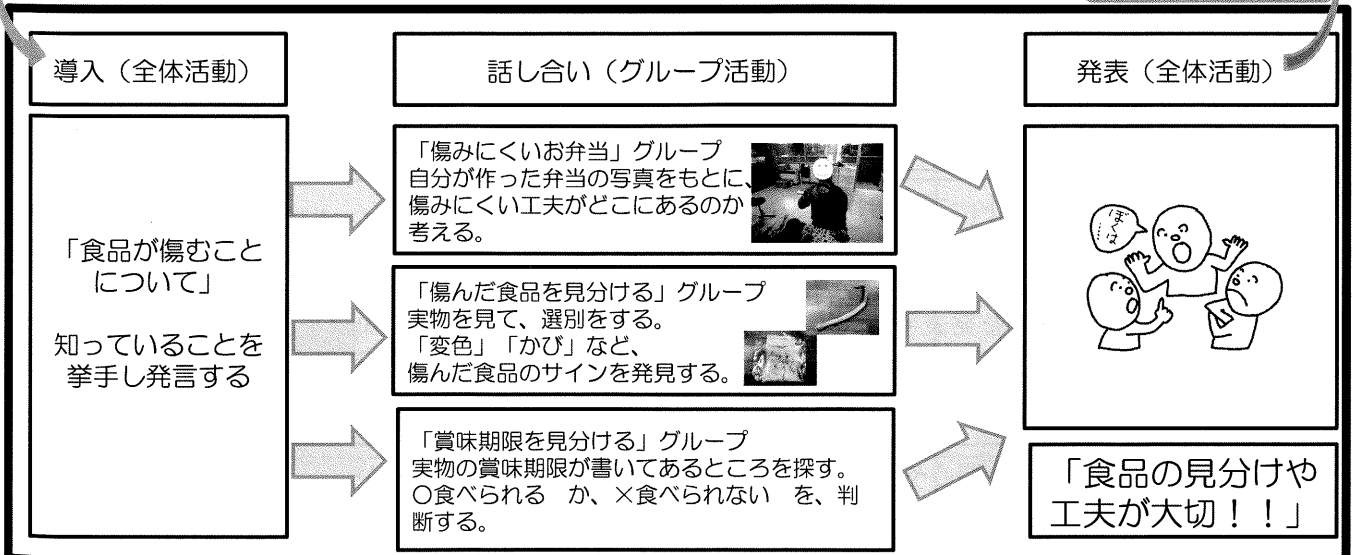
- 集団の実態
  - ・高2生徒 10名 IQ 27~65 知的障害、自閉症、ダウン症
  - ・食器の洗い方、まな板の扱いなど、衛生に関する指導は実技を通して行っている。
  - ・全員が1年生6月期の「校内実習」において、お弁当を作る経験を重ねている。
- 関連する個別教育計画 「将来の自立に向けて、自発的に家事をする」「料理のレパートリーを増やす」など
- 支援内容配列表との関連
  - ・支援内容配列表に手洗いにに関する項目が追加され、清潔、衛生面から生徒の主体者意識を育てることをねらいとした。
- 授業のポイント
  - ・生徒たちが実感を持って「わかる」こと→具体物をもとに判断をする
  - ・主体的に考えること、参加すること→話し合い これらの経験を重ね、主体的に生活する姿を期待する。

### 本単元の指導計画

くらし実技（被服）のテーマ：健康で安全な食生活

回	学習内容（高2）		
	Aグループ ガス台を用いて、1人で調理を行う	Bグループ シリコンスチーマーを用いて、1人で調理を行う	Cグループ ホットプレート等を使い、集団で調理を行う。
単元を通して指導	バランスのとれた食事／調理器具の衛生的な使用／食洗機の使用	買い物（g表示、賞味期限など、食材の見極め）／生肉、生魚の扱い／	調理室の清掃／食器洗い／片付け
1～3	バランスワールドカップ「和食・中華・インド」 ※メニューは教員が提示する。買い物、身支度、調理活動、試食、片付けを、生徒同士協力して行う。	牛丼、プリの照り焼き、温野菜サラダ、みそ汁等 ※買い物、身支度、調理活動、試食、片付けを、1人で行う。	カレーライス、ハヤシライス、シチュー ※身支度、調理室の清掃、調理活動、試食、片付けを、教員とともにを行う。
4	食品の衛生		
5～7	自分で考えるバランス定食「和食・中華・洋食」 ※バランスのとれたメニューを自分で考える。買い物、身支度、調理活動、試食、片付けを、生徒同士協力して行う。	プリの照り焼き、キムチチゲ、小松菜の和え物、みそ汁等 ※買い物、身支度、調理活動、試食、片付けを、1人で行う。	焼きそば、お好み焼き、パニーニ ※身支度、調理室の清掃、調理活動、試食、片付けを、教員とともにを行う。

実技への意欲を高める





## 生活支援 指導略案

学部：高等部  
場所：高3教室

「本人の気づきを大切にし、清潔な住まいに着目した授業」														
授業名	くらし実技 (住まい) 「私のしたい くらし方」	指導者 MT：山本 由佳 ST：岩本 悠希 ST：湯山 孝司												
対象者	高等部3年 生徒10名 (男子5名、女子5名)													
設定理由	<input type="checkbox"/> 関連する支援内容配列表項目 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>身近生活</th> <th>家庭生活</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学部</td> <td>日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高等部</td> <td></td> <td>将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。</td> </tr> </tbody> </table>			身近生活	家庭生活	小学部	日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。		高等部		将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。			
		身近生活	家庭生活											
小学部	日常生活に必要な身近処理(食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど)を自分でする。													
高等部		将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。												
	<input type="checkbox"/> 関連する個別教育計画の目標 「将来の自立した生活に向けて準備する」「社会人としてのマナーを意識することができる」「自己理解を深める」「身近処理技能の向上を図る」など 本校高等部では、卒業後の自分自身のくらし方、更には生き方を主体的に考え、選択し体験を重ねる学習として「くらし」を設定している。新版支援内容配列表で「日常生活に必要な身近処理(手洗い)」の項目が加わり、高等部では、清潔の視点から授業作りを行った。 対象生徒は1月から住まいの授業に取り組んでいる。「健康的で快適な住まいをつくろう」というテーマのもとに、1、2年時には、理想の部屋や家等について考え、自分の住まいを自分でつくろうとする意識やその住まいを保つための掃除方法、家庭での役割について学習してきた。実態はまちまちであるが、どの生徒も住まいを清潔に保とうとする習慣は身につけている。本授業では、なぜ清潔な住まいがよいのか考える。清潔である必要性や清潔に保つ方法の知識を深め、健康的な住まいを主体的につくっていく姿を期待している。 授業前半は下記の学習を行う。授業後半は本人と保護者の希望、生徒の実態等を考慮してグループ編成し、住まいの掃除を実際に行う活動を設定している。本時は前半部分のみ行う。													
指導計画	(全7回 本時：4/7) ①卒業したら、どこで誰とくらす? ②住まいに必要なもの ③住みたい家/物件を探そう ④清潔な住まいづくり【本時】 ⑤安心な住まいづくり ⑥安全な住まいづくり ⑦私のしたいくらし方	本時の目標 ○住まいへの関心や取り組みへの意欲を高める。 ○清潔な住まいである必要性やそれを保つ方法を知る。												
学習活動の展開	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学 習 活 動</div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">(1)</td> <td style="width: 40%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの復習をする。</li> <li>・本時の予定を確認する。</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの学習の必要性を考える。</li> <li>・住みたい家や物件を思い出す。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(2)</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて清潔な住まいについて話し合う。</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な住まいについて考える。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(3)</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループの発表を通し、清潔な住まいについての知識を深める。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(4)</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをする。</li> </ul> </td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住まいへの関心や家庭での取り組みへの意欲を高める。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>	(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの復習をする。</li> <li>・本時の予定を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの学習の必要性を考える。</li> <li>・住みたい家や物件を思い出す。</li> </ul>	(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて清潔な住まいについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な住まいについて考える。</li> </ul>	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループの発表を通し、清潔な住まいについての知識を深める。</li> </ul>	(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住まいへの関心や家庭での取り組みへの意欲を高める。</li> </ul>	<div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">指 導 内 容 ・ 留 意 点</div>
(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの復習をする。</li> <li>・本時の予定を確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住まいの学習の必要性を考える。</li> <li>・住みたい家や物件を思い出す。</li> </ul>												
(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループに分かれて清潔な住まいについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔な住まいについて考える。</li> </ul>												
(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループで話し合ったことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他グループの発表を通し、清潔な住まいについての知識を深める。</li> </ul>												
(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の住まいへの関心や家庭での取り組みへの意欲を高める。</li> </ul>												
評価	<input type="checkbox"/> 住まいへの関心や取り組みへの意欲を高めることができたか。 <input type="checkbox"/> 清潔な住まいの必要性やそれを保つ方法を知ることができたか。													



生活支援

# 高等部

## 3年生「くらし実技（住まい）」

山本由佳

### 関連する支援内容配列表項目

小学部	身辺生活	家庭生活
高等部	○日常生活に必要な身辺処理（食事や排泄の後に丁寧に手を洗うなど）を自分でする。	○将来の自立した生活に必要な調理、被服、すまいなどの知識と技術を身につけ、実践する。

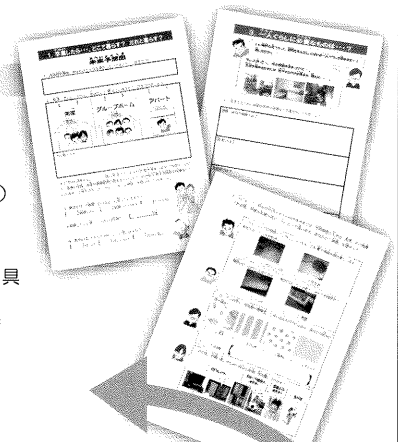
### 「本人の気づきを大切に、清潔な住まいに着目した授業」

- 集団の実態
  - ・高3生徒 10名 IQ 25~62 知的障害、自閉症、ダウン症、ブラダウィリー症候群
  - ・全員が掃除の習慣は身につけてきている。
  - ・概ねの生徒が「きれいな住まいが気持ちよい」と答えているが、清潔・衛生面を意識している生徒は少ない。
- 関連する個別教育計画 「将来の自立した生活に向けて準備する」「社会人としてのマナーを意識することができる」等
- 支援内容配列表との関連
  - ・支援内容配列表に手洗いに関する項目が追加され、高等部では清潔、衛生面に着目した授業づくりを行った。
- 授業のポイント
  - ・生徒たちが実感を持って「わかる」こと→これまでの授業での経験、具体物をもとに判断する。
  - ・主体的に考えること、参加すること→話し合い これらの経験を重ね、主体的に生活する姿を期待する。

### 本単元の指導計画

くらし実技（住まい）のテーマ：健康的で快適な住まいをつくらう

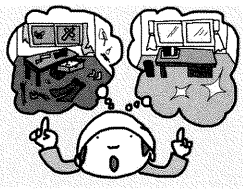
回	学習内容（高3）	
	思考、関心、意欲（授業前半） 「将来の住まい」 全体	知識・技能（授業後半） 「知っておくと役立つ住まいのこと」 全体またはグループでの実技 (生徒の実態や課題、アンケートを基に編成)
1	卒業したらどこで誰とくらす？	居室の掃除
2	住まいに必要なもの	寝具に関わること、洗剤の用途・使い方、色々な掃除用具
3	住みたい家／物件を探そう	寝具に関わること、ガスレンジの掃除、色々な掃除用具
4	清潔な住まいづくり	なし
5	安心な住まいづくり	居室の掃除、洗剤の用途・使い方、冷暖房器具の掃除
6	安全な住まいづくり	住まいでのトラブル対処法
7	私のしたいくらし方	生活の彩り（花、写真立て等の購入）



実技への意欲を高める

#### 導入（全体活動）

「健康的で快適な住まいって？」  
「清潔な住まいって？」  
「ハウスダストって？」



#### 話し合い（グループ活動）

【Aグループ】  
ハウスダストはどこに多いか  
【Bグループ】  
ダニはどこにいるか  
【Cグループ】  
カビはどこにあるか



#### 発表（全体活動）

「清潔な住まいがいい！！」  
「掃除しなきゃ！！」  
「掃除した～い！！」

